

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 6月 15日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|--------------------------------------|
| 事業所番号 | 4070200821 |
| 法人名 | 株式会社 七施 |
| 事業所名 | グループホーム 大正館 |
| 所在地 (電話番号) | 北九州市若松区花野路1-2-5 (電話) 093-742-7070 |
| 評価機関名 | 社団法人 福岡県介護福祉士会 |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F |
| 訪問調査日 | 平成19年4月21日 |

【情報提供票より】(平成 19年 3月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|-------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 16年 2月 6日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 14 人 | 常勤 6人, 非常勤 8人, 常勤換算 10人 | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--|--|
| 建物形態 | 併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築 |
| 建物構造 | 造り | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|--|--|--|---|
| 家賃(平均月額) | 31,500 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有() 円 | <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | <input checked="" type="radio"/> 有 120,000 円 | 有りの場合 償却の有無 | 有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 1200 円 | | | |

(4) 利用者の概要(月 日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 16 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 1 名 | | |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 7 名 | | |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 84.8 歳 | 最低 | 74 歳 | 最高 | 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------|
| 協力医療機関名 | 若戸病院 二島デンタルクリニック |
|---------|------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「花野路」と住所が示すとおり、緑の自然がいっぱいの新興住宅にホームがある。運営主体は株式会社七施で、仏教の無財の七施を理念としてケアに取り組んでいる。入居希望者には性別・介護度・既往症・身寄りのある無し等に関係なく、受け入れている。看護師を雇用し、ターミナルケアも行っている。開設以来の職員が結婚・出産し、職場復帰されてから時に、赤ちゃんを連れて時に勤務をしている。利用者はリビングの赤ちゃんの方に寄ってきてあやしたり、ベビーベッドに眠らせたりしている。赤ちゃんがいる時は、全体的に利用者の動きやしぐさが活発化しており、利用者の表情も非常に良い。赤ちゃんの存在が利用者の暮らしにいい効果が発揮している。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の外部評価の結果に対して全てではないが、改善に取り組まれている。 |
| ① | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価を2人の管理者が作成している。サービス評価の意義や目的について運営者・管理者・職員みんなで話合って欲しい。自己評価は項目一つひとつ点検していく過程や改善計画やその取り組みに意義があるので全職員で取り組まれることを望む。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議の主な内容は、活動報告・利用状況・研修内容・医療連携体制・家族会等についてである。運営推進会議が開催され、地域の代表とも協力が得られるようになってきていたが、市職員の参加できる時間帯の開催にすると地域の人が参加できなくなり、新たな課題が発生している。幅広い多くの人たちの参加する会議となるように運営推進会議の意義や役割を十分に理解していただき、円滑な開催となるよう話し合いや工夫が望まれる。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) |
| | ホームだよりは出していないが、家族の訪問時には口頭で利用者の日々の生活を報告している。特に健康に関しては電話で随時報告している。家族会を設け、半年に1回開催し、家族の他、かかりつけ医、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、民生委員等第三者にも参加してもらっている。家族からの相談や意見は、現在のところ利用料に関することだけである。家族の意見はサービスの質を向上させる「宝もの」として捉え、家族だけで話し合う時間をつくることも一つの方法ではないでしょうか。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| ④ | ホームの努力によって地域の餅つき行事に参加できるようになったり、地域の演奏ボランティアが来てくれるようになった。隣接する地域の中学校の運動会を見に行ったりもしている。地域が新興住宅地でもあり、自治会の加入希望をしても、地域が入れてくれない。地域の協力的な人と一緒に行政とも話し合うなど、自治会加入を模索・検討されてはいかがでしょうか。 |

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 仏教思想に基づいた「七施」を理念として、しっかりとケアに取り組んでいるが、法人としての理念である。 | ○ | 地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、グループホーム理念の見直しが望まれる。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は玄関に大きな立派な額に入れてあり、ミーティングの際、職員と唱和すると共に日々のケアの中で活かされている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | グループホームの努力によって地域の餅つき行事に参加できるようになったり、地域のボランティア演奏などが来てくれるようになった。校区の学校は協力的でないが、職員が住む隣の中学校の職場体験の受け入れや運動会を見に行ったりしている。自治会加入については、希望をだしても、老人会がない新興住宅地でもあり、地域が入れてくれない。 | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 2ユニットの管理者2人で自己評価表を作成している。 | ○ | サービス評価の意義や目的について運営者・管理者・職員全員で話合って欲しい。自己評価は項目一つひとつ点検していく過程や改善計画やその取り組みに意義があるので全職員で取り組まれることが望まれる。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は開催され、地域の代表とも協力が得られるようになってきた。開催時間によって地域包括支援センターの参加がなかったり、地域包括支援センターの参加できる時間帯にすると地域の人が参加できなかったりと新たな課題が発生している。 | ○ | 幅広い多くの人たちの参加する会議となるよう、運営推進会議の意義や役割を十分に理解していただき、円滑な開催となるよう話し合いや工夫が望まれる。地域包括支援センターが参加している運営推進会議の場で自治会加入について話し合いをされてはいかがでしょうか。 |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議以外で市のケースワーカーとの連携は十分に出来ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 7 | 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 職員は権利擁護に関する研修を受講し、ホームでの伝達研修を行っている。必要な人にはそれらを活用できるように支援体制を整えている。 | | |
| 8 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | ホームだよりは出しては出していないが、家族の訪問時に口頭で報告している。特に健康に関しては電話で随時報告している。 | | |
| 9 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を設け、半年に1回開催し、家族の他、かかりつけ医、民生委員、薬剤師、入居前の介護支援専門員、医療ソーシャルワーカー等の第三者にも参加してもらっている。家族会だけで話し合う機会はないが、家族からの相談や苦情を随時受けている。 | | |
| 10 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 過去には、急に退職することはあったが、ここ1年間、移動はない。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員採用にあたっては男女に関係なく、また、年齢も20歳代から60歳代が雇用されている。開設当時から職員で産休明けから勤務した時には、子どもを連れて勤務できるようベビーベッドを用意し、働きやすい環境をつくっている。職員の中にはなつかしの歌を得意としたり、調理師免許を活かして手作りおやつを作ったりと、職員の力を発揮出来る機会造りに配慮している。 | | |
| 12 | 20 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 市や弁護士会ならびに他施設主催の人権教育や研修に職員を参加させている。 | | |
| 13 | 21 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 常勤・非常勤に関係なく、研修に参加させ、レポート提出と共に週1回のミーティング、あるいは法人グループの全体ミーティングで伝達研修をしている。また、資格取得に向けても費用面で全面的支援を行うなど、職員を育てる取り組みをしっかりと行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|---|------|---|
| 14 | 22 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 介護サービス事業所連絡会への参加、他同業者との交流や研修に参加し、サービスの質の向上への取り組みをしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用者と家族は事前に見学にこられるが、早急に入居させたい家族が多いため、本人の選択がなく、また入居までの期間が短期であるのが現状である。 | ○ | 利用者によってさまざまな理由はあるが、できるだけ利用者が馴染みながら入居になるよう、家族にも理解をいただき、家族と一緒に工夫されることが望まれる。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 勤務の職員が連れてきている赤ちゃんを相手をしたり、寝かせたり、調理の味見や下膳をしたり、その人のできることを自然な形でしてもらい、利用者を介護を受ける立場としてだけでなく、共に生きる関係として支援している。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時、家族に聞き取りを行っているが十分な情報収集が困難な利用者が多い。入居後、利用者一人ひとりに生活の中で声かけをし、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者一人ひとりの状況に合わせて、より良く暮らすための課題を全職員で話し合い、受診なども柔軟に対応できるように支援体制を整え、介護計画を作成している。 | | |
| 19 | 39 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は定期的に見直しが行われている。また、必要に応じて、現状に即した介護計画を作成している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 20 | 41 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者や家族の状況に応じて、通院の送迎を柔軟に対応している。医療処置を要する利用者が多く、またターミナルの利用者もいるが、ホームで継続して生活できるように支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者や家族と話し合い、かかりつけ医を決定し、受診支援をしている。 | | |
| 22 | 49 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ホームとしては希望があれば、ターミナルケアをすることを決めている。入居時後、早い段階から本人や家族からターミナルの意向を伺い、かかりつけ医との話し合いの中で方針を共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人情報の取り扱いについては全職員に誓約書を取り、またミーティング時に話し合いを持って意志統一を図っている。ケース記録は鍵付き書庫で保管をしている。 | | |
| 24 | 54 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 医療的処置を要する利用者が多く、一人ひとり体調に配慮しながら、その時の気持ちを大切に、できるだけ個別性のある支援を心がけている。 | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 系列事業所の栄養士の指導の下、食事支援が行われている。食事の支度は1階の厨房で一括用意をしているが、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事を摂っている。入居者はそれぞれの能力に合わせ献立に参加、下膳などすすんで行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 26 | 59 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は火・金曜日の午前中を基本にしているが、汚染状況などに合わせ24時間対応をしている。週3回は入浴支援ができています。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 要介護状態の重度の入居者が多い現状の中、雑巾縫いや人の世話などできること、したいことができるように支援をしている。 | | |
| 28 | 63 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天候や入居者の体調をみて散歩したり、買い物などの外出支援をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 常時、無施錠を実行している。出入口近くに事務室があり、訪問者、入居者に対し閉塞感のないように体制を整えている。 | | |
| 30 | 73 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署との合同訓練を年に1回実施している。夜を想定しての訓練も行っている。緊急連絡網を作成し災害時に対応できるよう備えている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量や水分摂取量を記録にとともに、入居者一人ひとりの疾病に合わせて対応をしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 食堂横に十分な広さのリビングがあり、自由に過ごせる居場所となっており、雑誌なども置かれている。また階段の横にはソファが設置され、外光で暖かく少人数で過ごせる場所が確保されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----|----|---|---|------|----------------------------------|
| 33 | 85 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の馴染みの家具や仏壇が持ち込まれている。化粧道具が目につくところに置かれ、生活習慣が継続できるように支援をしている。 | | |